令 和 ７年 １２月 １日
（2025年）

保護者の皆様

吹田市立西山田中学校
校 長　杉 山　奈 津 子

令和7年度 全国学力･学習状況調査の分析について

本年度、３年生を対象として「令和７年度全国学力・学習状況調査」を実施し、９月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった３年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

１ 教科に関する調査結果の分析

【国語　調査結果の概要】

平均正答率は、全国値と比べてやや下回るという結果であった。学習指導要領の領域ごとに見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「読むこと」については、全国値とほぼ同じである。一方、「話すこと・聞くこと」「書くこと」については、課題が見られる。

問題の概要ごとに見ると、「３三「しきりと」の意味として適切なものを選択する」は、全国値をやや上回っている。「２二聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する」「３一物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する」「３二「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く」「４二手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見つけて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く」については、全国値とほぼ同じである。しかし、「１四ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く」「２四発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く」「３四「一榎木の実」に書かれている場面が、「二釣りの話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く」については、全国値をやや下回っている。また、「１一変換した漢字として適切なものを選択する（かいしん）」については、全国値を下回っている。

【国語科における成果と今後の改善点について】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、授業の中できめ細かく指導してきたことの成果が表れている。また、「読むこと」についても、指名音読、一斉音読、また、クラス全員による二文読みなどを通して、読解力の成果が出ている。しかし、「話すこと・聞くこと」については、課題が見られたため、話し合い活動を授業の中で積極的に展開し、「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する力」や、「自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫する力」の伸長を図る。また、「書くこと」については、特に記述式の問題に課題が見られる。「Ｉ四自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」「２四資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」「３四文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる」については、無回答率が全国値と比べて高かった。今後は文学的文章や説明的文章を学習の充実を図り、人物の心情や、筆者の主張を捉えるだけでなく、作品について感想を豊かに持つ力や筆者の主張に対して自分の考えを論理的に表現していく力などをより一層伸長させるための授業作りを行う。

【数学　調査結果の概要】

平均正答率は、全国値とほぼ同じという結果であった。学習指導要領の領域ごとにみると「C 関数」では全国値をやや下回り、「A 数と式」「B 図形」「D データの活用」では、全国とほぼ同じという結果であった。

問題の概要ごとで見ると「６（３）連続する３つの３の倍数の和が、９の倍数になることの説明を完成する」は、全国値を上回り、「２果汁４０％の飲み物 a mL に含まれる果汁の量を、a を用いた式で表す」は、全国値をやや上回った。しかし、「５：ある学級の生徒４０人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m 以上 25m 未満の階級の相対度数を求める」は全国値をやや下回り、「６（Ｉ）連続する２つの３の倍数の和が９の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める」については全国値を下回った。

【数学における成果と今後の改善点について】

学習言語を根拠として説明する力の育成に取り組んできた結果、記述式問題に限ると、正答率が全国値を上回った。問題演習に取り組む時間には生徒どうしで教え合い、学び合う時間を多くとることで、解き方・考え方が定着した。

一方で、知識の定着、解法・技能の定着に課題が見られた。特に「C 関数」の単元でその傾向がみられた。問題集（演習）についての取り組みを充実し、知識、解法、技能の定着を図る。そのうえで、「思考力、判断力、表現力」の一層の向上を図るための取り組みのさらなる充実を図る。個人で問題に取り組むことの重要性も伝えつつ、積極的にグループ活動なども取り入れ、生徒が主体的に授業に参加できる学習環境を整える。

【理科　調査結果の概要】

平均正答率は、全国値とほぼ同じという結果であった。学習指導要領の領域ごとにみると「『生命』を柱とする領域」「『地球』を柱とする領域」について課題が見られる。

問題の概要ごとにみると「１（２）『理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？』という疑問を解決するための課題を記述する」は、全国値をやや上回っている。しかし、「１（３）地層１から地層４までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する」「６（２）牧野富太郎の『サクユリ』のスケッチから、サクユリの【茎の断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する」は全国値を下回っている。また、「１（４）生物１から生物４までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する」「６（１）牧野富太郎の『ノジキク』のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する」は全国値をやや下回っている。

【理科における成果と今後の改善点について】

授業では、「根拠をもとに考える」ことを大切にし、実験結果をレポートやワークシートにまとめる活動を多く行ってきた。そのため、記述式の問題で全国値をやや上回るという結果になった問題もみられた。「『エネルギー』を柱とする領域」「『粒子』を柱とする領域」の問題では、おおむね全国値とほぼ同じであり、基礎的な内容の定着を今後も図る。一方、「『生命』を柱とする領域」「『地球』を柱とする領域」で全国値を下回った問題は、どちらも第１学年で学習した単元であり、継続的な学習の必要性が明らかとなった。既習内容の復習や演習問題の時間を設け、１から知識の定着を図るよう取り組む。また、図やグラフを読み取ることにも課題があり、授業の中でさまざまなデータを参照する練習の充実を図る。

２ 生徒質問に関する調査結果の分析

【自分自身のことについて】

・自分には、よいところがあると思うと答えた生徒が全国値とほぼ同じである。
・人が困っているときは、進んで助けていると答えた生徒が全国値とほぼ同じである。
・いじめは、どんな理由があってもいけないと答えた生徒が全国値とほぼ同じである。
・将来の夢や目標を持っていると答えた生徒が全国値をやや下回る。

【家庭生活・家庭学習について】

・学校の授業時間以外に平日に１時間以上勉強すると答えた生徒は全国値とほぼ同じ。
・学校の授業時間以外に土日に１時間以上勉強すると答えた生徒は全国値とほぼ同じ。
・毎日同じぐらいの時刻に寝ている。と答えた生徒は、全国値とほぼ同じ。
・毎日同じくらいの時刻に起きている。と答えた生徒は、全国値とほぼ同じ。
・朝食を毎朝食べていると答えた生徒が全国値をやや下回る。

【学校生活・学習について】

・学校が楽しいと答えた生徒は全国値とほぼ同じである。
・友達関係に満足している生徒は全国値と同じである。
・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると答えた生徒は全国値とほぼ同じである。
・PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表用のスライド）を作成できると答えた生徒は全国値とほぼ同じである。
・PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツール等を使ってまとめる）ことができると答えた生徒は全国値を下回る。

3 今後の取り組み

【改善・向上のために（学校では)】

・生徒が将来についての展望を持てるよう、キャリア学習の充実を図る。
・生徒の情報活用能力の向上を図るため、資料活用の機会や、一人一台端末を授業の中で活用する場面をより多く設定する等、授業改善に取り組む。
・生徒会活動や委員会活動の充実を図り、より一層生徒の自治能力を育む。

【改善・向上のために（家庭では)】

・家庭内でも基本的な生活習慣の定着に留意し、子どもの健全な心身の成長を見守っていただく。
・学習習慣の定着のため、学習計画やその実践などに家庭でも取り組んでいただく。

今回のアンケート結果を踏まえ、授業改善に取り組み「認め合い、支え合い、主体的に学ぶ生徒の育成」に努めてまいります。生徒の自立と幅広い学習の機会をつくるため、今後とも本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。